

## 第二編 労働運動

### 第一 共通運動

#### 概説

大正十一年の労働運動を通観して感ぜられることは、不況期に入つて表面沈滞したかの觀を呈した労働運動が却つて労働階級の大衆の裡に確實なる基礎を得つゝあることである。労働組合の組織の改造が現實焦点の問題として考究せられて來たこと、及び大衆の要求の上に政策を立てねばならぬといふ必要の迫つて來たこと等、總じて數年來の傾向であつた原則的理想の討究から去つて、現實的政策の考究へと傾いて來たことは本年に於ける一般的趨勢として擧げることが出來よう。

労働運動の渦中に於ける、唯心的『理想』の没落の傾向は、殊に關西の労働運動に現はれた二三の事實を通して指摘することが

出来る。その顯著な一つは久留弘三氏が文化協會を創設した際、労働運動が氏の理想と離反し來れることを論じたが、果然激烈なる論難攻撃に遭はざるを得なかつた。

更に本年の後半に於ける、政治運動の擡頭は、對露非干涉運動として現はれて來たのであるが、所謂議會政策に非らざる政治運動として、無産階級の政治的對抗として主張し宣傳せられて來た。殊に年末議會期に入り、過激社會運動取締法案の提出が喧傳せらるゝや、政府及び議會に對する對抗として、政治的運動の一層盛んならんとするの概を示し來つた。恐らく労働運動が從來固守して來た經濟的闘争の範圍を脱し無産階級の政治運動は今後の運動の一大標語となるであらう。

各労働組合、各種労働運動の共通的行動として目すべき題目としては、大正十一年に於ては次の如きものを擧ぐる事が出来るであらう。

#### 労働祭

#### 對失業運動

#### 政治運動、殊に普選問題

#### 過激社會運動取締法案問題

#### 國際労働會議問題

#### 露國飢饉救濟運動

#### 對露非干涉運動

今、左に夫等に關する經過の概要、運動の傾向を叙述しよう。

#### 1 労働祭

日本に於ける第三回の労働祭は、五月一日、東京、大阪、神戸、足尾、岡山、横濱、尼ヶ崎、八幡、京都、田島に於て催された。今、左に各地の状況を述べるであらう。

#### イ 東京に於ける労働祭

四月十五日午後七時より、月島労働會館に於て労働祭準備協議會開かる。會するも

の日本労働同盟、労働組合同盟會に屬する各労働組合其他約四十團體の幹部四十餘名。標語、示威運動順序等を決定した。

同十八日午後六時より月島労働週報社に協議會を開催、愈々計畫を確定。

扱て當日は芝浦埋立地を會場とし、午後一時より造船工労働組合の高山氏司會の下に開會、各労働組合の代表者三十名の演説あり、最後に東京鐵工組合の田口氏により

- 一 八時間労働の即時實施
- 二 勞農ロシアの承認
- 三 生存權の確立

の三個條の決議が朗讀せられ、可決せられた。かくて午後三時より示威運動に移り萬餘の労働者は大小の旗を風に靡かせつつ芝浦を練り出した。参加せる労働組合の主なるものは

月島親睦會、芝浦労働組合、日本労働同盟、關東労働同盟會、純労働者組合、勞技會、現業員組合、日本労働聯盟、造船工労働組合、本芝労働組合、信友會、工人會、相扶會、小石川労働會、時計工組合、正進會、技工組合等である。先登が會場出口の橋を渡る頃既に警官隊との小競合があつて數名の檢束

者を出したが、行列中に夥しき私服刑事を交へたる事とて、ピラを撒く者、革命歌を歌ふ者は直ちに檢束し去り、到る處亂闘が行はれた。示威行列は金杉橋より芝口を経て裏通りに入り、山下町を経て京橋に出づ

沿道は人垣を作り、行列は時々密集して駆け足となる。永代橋を渡り商船學校前の草原に到着し散會したのは午後六時過ぎ薄暮であつた。

因に警視廳並に市内各警察署へ檢束されたものは百二十六名に上つた。

#### 大阪に於る労働祭

四月十九日夜、東區島町の向上會本部にて、協議會を開き、打合はせをなした。メーデーの近くに從つて、野武士組其他は労働祭の趣意を宣傳すべく、各方面にリーフレットを配布し、路傍演説を開きなどした。扱て當日は關西労働同盟會所屬各組合、向上會、大阪鐵工組合其他約二十團體、一萬餘の労働者、中之島公園に集合し、向上會長八木氏を司會者とし、左の決議を可決した。

一 我等は完全なる八時間労働制の實現を期す

二 我等は誠意なき政府當局者に頼らず、自ら失業の苦しみより脱れる爲め最善の策を採ることを期す

三 我等は現代資本主義制度の下に樹立する内閣の存在に反對す

それより行列を作り、公園を出で南下天王寺公園に向つたが、四ツ橋を過ぐる頃より、ワツシヨくの掛聲と共に、槍のついた會旗、黒地に骸骨を染めだした物凄いや、赤色の三角旗を打ち振りつゝ、馳せ出し、電車は文字通り珠數繋ぎとなつて立往生し、電車の窓硝子の破壊せらるゝもの數ふべからず、途中幾多の波瀾を起しつゝ、薄暮天王寺公園に入り、労働歌を合唱して散會した。

#### 神戸に於る労働祭

神戸に於ては示威行列は一切禁ぜられて仕舞つた。其處で折柄碇泊中であつた英國艦隊を歓迎すると云ふ意味の旗行列を行ふと云ふ事が僅かに許可を得た。但し労働運動の色彩が少しでも出てはならぬと云ふ嚴達があつた。

當日は正午から大倉山公園下の廣場を會場とし、總同盟神戸聯合會、日本海員組合、東神鐵工組合、神戸鐵工組合、神戸印刷工組合、商船同志會、海友會、卓風會、其他の五百餘名の労働者の前に、柴田富太郎氏司會の下に開始された。労働祭の歌の合唱終つて、各團體の代表演説あり、宣言文朗讀を終つて式を閉ぢ、豫定の旗行列に移つた。

行列は先づ神戸聯合會の會旗と樂隊を先頭に、手に／＼英國々旗を翳し、午後三時同公園を出發、縣廳前より生田川に出で、居留地に下つて海岸通りをメリケン波止場に出で、榮町に上り、多聞通を経て湊川新開地より同公園を通過、石井橋にて解散した其筋より歌を禁止されたる爲め一同黙々として行進を續けた。

夜は六時より神港俱樂部で演説會を開催した。

＝ 足尾に於る労働祭

示威運動を一切封じられたので、全日本坑夫總聯合會足尾聯合會では足尾町間藤城

崎座に於て、記念講演會を開催した。

ホ 岡山に於る労働祭

示威運動を嚴禁され、當日午後七時同市上元町カフェー・ブラジル樓上に同志數十名集合して、今や演説會を開かんとする利那、國粹會員數十名棍棒を携へて亂入し双方入り亂れて格闘を演ずるの騒動を生じ演説會も其のまゝとなつた。

～ 横濱に於る労働祭

同じく示威運動を禁ぜられ、且つ各組合間の交渉に不十分な點があつた爲めか、餘りに氣勢が揚らなかつた。午前十時横濱公園の茶店喜樂亭を會場とし、仲仕組合主催の下に開會、左の決議をなした。

- 一 八時間制の即行
- 一 請負制度の全廢
- 一 生存權の確立

かくて演説會に移る頃には六百餘名が集まつた。

以上の外、八幡、尼崎、京都、田島に於ける労働祭を記念する運動があつた。

八幡——夜、八幡同志會主催記念演説會  
京都——夜、關西労働同盟會京都聯合會主催労働祭祝福大演説會

田島——日本労働總同盟田島支部及三庄支部、午前十時より、土生町三庄町に示威行列を行つた。

尙ほ名古屋に於ても中部労働組合聯合會、名古屋労働協會主催にて第一回の労働祭を行ふ事としたが、警察より一切の屋外集會を禁止したので、

「我等は警察當局の意志を尊重し大正十一年に限りメーデーの舉行を中止す」と云ふ決議をした。

和歌山に於ては和歌山機械工組合が大阪の示威運動に参加する筈であつたが、都合に依り中止し、和歌浦に至りて運動會を催した。

## 2 對失業運動

大正十一年は前年より引續いて、否な一層、我が労働界は失業問題の脅威を受けた年であつて、茲に於て本年の労働運動は此の失業問題に對する運動によつて其の幕を切り落し、しかも一年間を通じて労働運動を貫いた大きな潮流となつたのである。而して此の運動に關し各組合が如何なる態度を取り、如何なる運動が起つたかは、之を第五編『失業問題』の中「對失業運動」の條下に譲らうと思ふ。

### 3 政治運動、殊に普選運動

普選要求の運動は労働運動の中囀より漸く去りつゝある。而して大正十一年は此の傾向を一層明確に表現した。一月九日夜、大阪市東區島町向上會本部に開かれた労働聯合會に於ては、政治主義と直接主義との論争を生じ、結局日本労働總同盟加盟組合は普選を棄つることとなつた（其の印刷組合は會長賀川豊彦氏個人としては普選に賛成なるも、組合としては普選運動に参加しないこととなつた）。而して普選運動に興味を懷くものは向上會、洋服工組合及び商業使用人組合のみとなり、労働聯合會としては普選運動をせぬこととなつたのである。

- 然るに四月二日に開かれた日本労働總同盟關西労働同盟會大會に於ては、此の問題に決定的斷案を投ずることとなり、
- 一 労働團體にして普選の運動を爲す事は効  
少なくして害多しと認む
  - 一 上記の理由に依り我同盟は普選運動を爲  
さず

てふ決議を爲すに至つたのである。斯くて普選に矚望してゐた觀のあつた大阪の労働

運動は、それから金と手を切つた姿となつた。

後に普選賛成の向上會も、秋に至つて分裂し、八木派の去つて純向上會を別置するに至り、残つた向上會刷新派の間には反普選の機運が十分に漲る様に成つた。

東京に於ては、普選といふことが労働運動に際して考へられざるに至つた程に、労働運動と普選とは全く縁が遠くなつて仕舞つた。

唯だ日本労働總同盟名譽會長鈴木文治氏が宮城縣第五區より衆議院議員の候補に立つたと云ふ噂によつて、一問題を生じ、關西同盟會大會の席上、立候補反對決議案なるものが緊急動議として提出されたことは、大會の一餘興として目すべきものであらう。

#### 4 過激社會運動取締法案

##### 問題

同法案が第四十五議會に政府案として提出せられ、社會の輿論は一齊に之に對して反對の態度を取つた時、労働運動家及び各

労働組合は極めて冷靜の態度を採つて之に對してゐた。勿論、二三の組合に於ては協議會を催して反對の決議を發表したものが無いではないが。

該法案が貴族院の修正を経て衆議院に至つて葬り去られたが、高橋内閣に代つて立つた加藤新内閣は、同様の法案を又第四十六議會に提出するやの噂が専ら盛んであつた爲め、議會期に近付くや、之に對する反對運動が労働組合及び労働運動家の間に起らんとする氣運が仄見えた。然るに政府は前と同様の法案は勿論、如何なる形式に於ても斯かる種類の法案を第四十六議會に提出する意なしと言明した爲めに、此の問題は遂に闇から闇に葬り去られて仕舞つた。（尙ほ第四十五議會に於ける該法案の運命につきては、第二十一編『労働立法』の項下を参照せよ）

#### 5 國際労働會議問題

國際労働會議に於ける労働代表否認のことは、第一回の該會議より以來の常例事のと成つてゐたが、大正十一年に至つては、そ

れが更らに國際労働會議その物を否認する態度が生じて來た、

而して今年選出されて代表を承諾した田澤氏に對しても、各労働組合は公然否認の聲を上げたが、更らに國際労働會議に對する否認を公表した(八月二十日夜、東京市神田松本亭に於る國際労働會議否認演說會)。而已ならず日本労働總同盟理事棚橋小虎氏は直接 同會議の地に臨んで労働代表否認の抗議をなし、會議の劈頭に一波瀾を起さするに至つた。斯くて國際労働會議なるものは我國の労働者の希望からは餘りに縁遠いものになりつゝあることを見遁す譯には行かぬのである。(尙ほ國際労働會議に關しては第二十編『國際労働問題』の項下を参照せよ)

## 6 露國飢饉救濟運動

露國飢民救濟の運動は、本年の初めに於ては主として社會主義者、殊に前衛社の同人の間に企てられ、これに數箇の思想團體が共鳴して、熱心に活躍してゐたのであるが、後半期に入つては、それが労働運動家

及び労働組合の間に入るに至つたのである。本年の労働祭の標語の一として、「勞農露國の承認」いふ一句があつたこと、思ひ合はせて、其間に脈々相通するものがあることを知り得るであらう。斯くて各地の労働組合に於ては、或は小冊子を販賣して其の利益を集め、或は演說會、茶話會を催して寄附を集め、或はマルクスの彫像を街頭に懸いで其の利益を收め、或は自己の財布をばたいて之を蒐め等して救濟金の調達に奔走したのであつた。然しながら労働者の心情は之等の事にも満足を見出すことが出來ずして、遂に

## 7 對露非干涉運動

にまで展開せざるを得なかつたのである。

關西の労働團體、日本労働總同盟、向上會、交通労働組合、其他の労働組合は、九月に入り對露非關涉關西同盟會なるものを組織し、

- 一 ロシヤに駐屯する日本兵の即時撤退
- 二 勞農露國の承認
- 三 ロシアの飢饉に對する救濟金品の贈與

の三項の遂行實現を期せんとて、其の第一

着手として、九月二十五日天王寺公會堂に於て、同二十六日神戸基督教青年會館にて同二十七日は尼崎西性寺で講演會を開催するに至つた。

以上の經過を顧望し來る時は、我國労働運動の基調が如何なる方向に流れつゝあるかを窺ひ得るであらう。

## 第二 各團體の運動

### 一 日本労働總同盟系の運動

之を運動の各方面に就いて、其の主なるものを記述するならば、

#### 1 示威運動

大阪の十日戎祭に於ける野武士組の示威行列  
計畫(一月十日)  
關西労働同盟會の白表制度制定(四月十三日)  
電業員組合の大電買收問題に對する解散費分配要求檄文を大電従業員に撒布(十二月二十日)

#### 2 會合

關西労働同盟會の新年宴會と示威行列(二月四日)

大阪聯合會主催労働組合聯合運動會(四月二

十三日)

### 3 演説會・講演會

- 軍縮労働問題演説會 (本部主催 | 横須賀市諏訪公園 | 一月八日)
- 労働問題講演會 (伸銅工組合主催 | 大阪市市民館 | 一月二十三日)
- 労働問題講演會 (神戸聯合會主催 | 神戸市青年會館 | 一月三十日)
- 労働問題講演會 (東洋製紙會社罷工批判演説會 | 大阪聯合會主催 | 天王寺公會堂 | 一月三十一日)
- 労働問題講演會 (尼崎労働聯盟會主催 | 西宮町郡公會堂 | 二月二日)
- 労働問題講演會 (全日本鑛夫總聯合會主催 | 足尾町城崎座 | 三月十六日)
- 労働問題研究會 (中部労働組合聯合會主催 | 名古屋市中區中央食堂 | 三月二十一日)
- 労働問題講演會 (全日本鑛夫總聯合會主催 | 足尾町城崎座、五月十三日 | 同町金田座、同十四日)
- 労働問題演説會 (元勞友會主催 | 八幡市ハイカラ館 | 五月二十九日)
- 社會問題講演會 (中部労働組合聯合會主催 | 名古屋縣立第一高女講堂 | 六月十一日)
- 労働者雄辯大會 (大阪聯合會主催 | 天王寺公會堂 | 六月十五日)
- 労働爭議批判演説會 (神戸聯合會主催 | 神戸市基督教青年會館 | 六月二十一日)
- 大阪鐵工所爭議批判演説會 (女給同盟主催 |

### 労働運動

- 天王寺公會堂 | 六月二十七日)
- 三菱川崎爭議一周年記念演説會 (神戸聯合會主催 | 神戸市基督教青年會館 | 七月二十九日)
- 人権蹂躪問題演説會 (同上主催 | 同所 | 七月三十日)
- 神戸製鋼爭議批判演説會 (關西聯合會神戸支部主催 | 神戸市基督教青年會館 | 八月二十九日)
- 消費節約不可能演説會 (名古屋労働者協會主催 | 名古屋中區中央食堂 | 九月二十日)
- 愛知時計爭議一週年記念労働問題演説會 (同上主催 | 同所 | 十月五日)
- 社會問題講演會 (全日本鑛夫總聯合會主催 | 足尾町城崎座、十月三十一日 | 同町金田座、十一月一日)
- 労働問題演説會 (大阪紡績労働組合主催 | 大阪市民館 | 十一月三日)
- 労働問題演説會 (京都聯合會主催 | 京都市九條三々俱樂部 | 十一月二十四日)

### 4 其他

労働會館建設運動 (中部労働組合聯合會)

### 二 労働組合同盟會の運動

- 労働講座 (大阪鐵工組合本部 | 六月十七日)
- 全國労働組合聯合第一回促進演説會 (大阪天王寺公會堂 | 七月二日)
- 同上第二回演説會 (同所 | 七月九日)

### 三 官業労働總同盟系の運動

同同盟系は失業問題てふ當面の問題に對して、此の一年間は其の爲めに終始した有様であつた。殊に其の中堅を爲した向上會が已に述べたるが如く内訌分裂を見た爲めに、殆んど對外的運動を爲すことが出来なかつたことは同同盟系の労働運動に對しては確かに一大打撃であつた。對失業運動に就いては第五編『失業問題』を参照されたいのであるが、同系の大正十一年に於ける運動と目すべきは、

- 普選促進失業者防止演説會 (小石川労働會主催 | 東京市外飛鳥山 | 一月二十七、八、九の三日間)

を擧げ得るであらう。

### 四 其他の組合の運動

以上の外の労働組合の主催に掛る運動を列記すれば、

- 交通労働宣傳演説會 (西部交通労働組合主催 | 大阪天王寺公會堂 | 四月十日)
- 労働問題講演會 (同上主催 | 同所 | 五月二十

九日)  
 理髮助手徒弟演説會(日本理髮刷新會主催—  
 同所—七月十一日)  
 労働運口犠牲者送別演説會(電線工組合主催  
 —同所—七月二十日)  
 藤永田勞資爭議一周年記念演説會(大阪造船  
 工組合主催—同所—七月二十一日)  
 労働問題演説會(勞正會舊幹部主催—廣島市  
 法正寺—七月三十日)  
 労働演説會(尼崎労働組合伊丹支部去催—伊  
 丹町満福寺—十一月四日)  
 労働演説會(労働聯合會同盟會主催—堺市大  
 濱公會堂—十二月二日)

### 五 其他の運動

各系の労働組合聯合し、又は労働組合の  
 機關によらず、他の團體もしくは個人の主  
 催によつて行はれた運動を記すれば、  
 八幡製鐵所罷業二週年記念演説會(元勞友會  
 主催—八幡市通町有樂館—二月五日)  
 婦人労働演説會(神戸市三國座—二月五日)  
 労働問題演説會(名古屋労働者協會、W.P.P.勞  
 働組合、鐵工組合、自由労働者組合聯合主  
 催—名古屋市中區民衆娛樂館—十月九日)  
 社會問題講演會(下伊那郡青年會主催—鈴木  
 文治、赤松克麿、上條愛一氏出演—長野縣  
 飯田町姫城ホテル公會堂—十月十二日)  
 労働運動と刑事被告人に關する演説會(神戸

收監者同盟主催—大阪天王寺公會堂—十一  
 月十三日)  
 尙ほ以上に揚げた運動の外、労働爭議に  
 直接關係して行はれた、示威運動、演説會  
 等については第三編『労働爭議』中に叙べる  
 であらう。今、左に右の中、最も注意を引  
 いた八幡製鐵所罷業記念演説會の状況を概  
 説しよう。

八幡製鐵所罷業二週年記念演説會  
 二月五日、八幡市有樂館に於て、八幡製  
 鐵所罷業二週年記念労働者大會が開かれ  
 た。西田健太郎、淺原健藏氏等勞友會殘黨  
 の主催であつたが、所轄警察署長の談とし  
 て、二月五日の大阪朝日には

國粹會の言分を聞くと一昨年八幡製鐵所同  
 盟罷業事件は八幡市の大不祥事で市民は極め  
 て迷惑を蒙つてゐる。努めて忘れなければな  
 らぬ性質のものであるにも拘らず之が記念大  
 會を開く事は市民を愚弄し侮辱するものであ  
 る。それで今度も普通の労働者大會ならば干  
 渉しないが、若しも記念大會とする場合は何  
 處迄も反對するといふ(國粹會が)のである。  
 それで八幡署でも主催者側を喚び大略の意志  
 を通じて兎も角同盟罷業記念といふ文字を削  
 つて單に労働者大會とすることに注意して置  
 いた云々。

然し乍ら大會は依然として、罷業記念と  
 して開かれた。入場を拒まれて窓より飛び  
 込む者もあり、定刻前に聴衆は館に満ち充  
 ちて身動きもならぬ程であつた。——七時  
 開會、西田健太郎、渡邊滿三、淺原健三、和  
 田久太郎、工藤勇、大杉榮、近藤憲二、岩  
 佐太郎氏等の演説があつたが、殆んどす  
 べて開口間もなく中止を命ぜられる有様で  
 あつた。——大杉、岩佐、近藤、和田氏等  
 は巧みに東京警視廳の監視を脱し西下した  
 ものであつた。猶ほ淺原氏の演説中國粹會  
 の某演説妨害の爲め壇上に飛び上り立會演  
 説を申込んだが罵聲に葬らるゝ等のことが  
 あつた。同日の聴衆の約半數は舊勞友會員  
 なりと傳へられてゐる。

### 第三 當局の對策及態度

#### 1 大阪に於ける労働専務 警官の設置

過去一年間の經驗と將來に於る労働運動  
 の展開に對する豫想よりして、本年度より

労働専務警官の設置を爲すと傳へられてゐる。今、一月十七日の大阪朝日の記す所に依れば、

『現在の計畫に依れば、人員は二十名（警部補四名、巡查部長六名、平巡查十名）で過半数は本部特高課勤務、残餘は朝日橋、福島、泉尾、中津等市内各工場地帯の警察、高等課に配置する筈で、是等専務巡查に對する特別講習は二月末から開催の都合であつたが失業不安に色めき立つ各工場的情勢から愈來る二十日頃から本部で開始する事に決定した、講習期間は向ふ三箇月間で講習生は右二十名の外、全署の高等課員二名乃至三名宛を加へて都合五十餘名とし、科目は社會問題としての労働問題と之が實際上の取締方に就いて常識上の訓練を行ひ、思想の推移、群衆心理問題、經濟問題、工業政策、労働法規、労働組合論其他工場管理の諸法規、實業界の實狀等の多數に亘つて課し講師としては實務のこと一切は賀加美特高課長を始め各課長が之に當る』

## 2 福岡警察部長の對労働運動態度

十月二十日の福岡日報に近く山口縣内務部長に赴任すべき福岡警察部長藤山竹一氏の追懷談として掲げられた記事は、北九州の労働運動及び之に對する當局の態度を知

る一資料として興味あるものと思惟するが故に、左に其の全文を掲げやう。（注意、左は同紙に掲げられた原文を其の儘、且つ第一編『労働組合』中『日本労働總同盟』の項の併讀を望む）

『筑豊の炭坑を有し八幡製鐵所を有する福岡縣は警察部長として労働警察に着眼せねばならぬから自分は着任の際八幡に根據を有する淺原一派に對し自分の立場を説いて置いた淺原一派は労働プロカーであるから彼等の活動を防止することは出来るが自分は労働問題には可成りの理解を持つて居るから決して妨害も壓迫もせぬ又日本の労働が自覺して漸々のに進むのは當然の事で且つ最も歡ぶべき現象と信ずるけれども突飛的無秩序に動搖する事は決して望ましくないから彼等一派の行動が若し不穩であつたならば自分は忌憚なく處分する旨を通じた次第である然るに案の如く其後大辻炭坑に於て不穩の事があつたから約束通り徹底的に痛めて遣つた彼等自身の事は棚に上げて今回大阪の労働會議に於ける官憲の壓迫に對し宣言決議して居る様子であるが肝腎の自分が轉職したから彼等に取つては標的を失つた觀もあらうが元來大辻炭坑事件の如きを捕へて官憲の壓迫と見るのは彼等の如何に無力さを表明したも同様で彼等の仲間では寧ろ慰笑されて居るとの話である北九州の連中では金はなし手も足も出ず影を潜めて居る

のでそれを官憲の壓迫に依るかの様に遁辭を設け仲間への體裁を作つてゐるのださうで壓迫呼ばはりは大分筋が離れて居る北九州の労働者と阪神方面の労働者とは大分素質が違つて居るし知識程度も低い殊に智力労働者に比し炭坑労働者など非常に相違の點がある教育程度に於ても小學校卒業位ならば穩かであるが中學中途退學者などは退學の原因が多く本人の自墮落で其の生意氣さ加減は鼻持ならぬ然し中學卒業以上になれば又一ト通りの考へも附くので八幡邊では周圍の刺戟も少いが阪神地方になれば周圍の關係や何やで所謂生意氣屋が最後の考へもなく盲動する譯である北九州は彼等の所謂「處女地」で將來労働問題の中心地と見られて居るから無論現在の様な状態で何時迄もあるべき筈はないが要するに其進歩は漸進的であらねば嘘である若し急激な變化を見るならば必らずや岩を破り石を碎きて眞の發達は出來まいと思ふ後任警察部長は警視廳に於て労働警察方面の手腕者であるから將來は北九州の労働問題は鮮かに料理されるであらう』